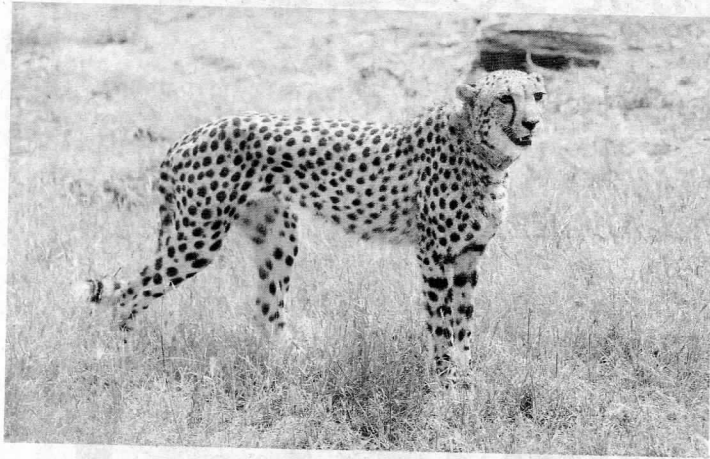


絶滅のチーター 復活計画が難航

インド

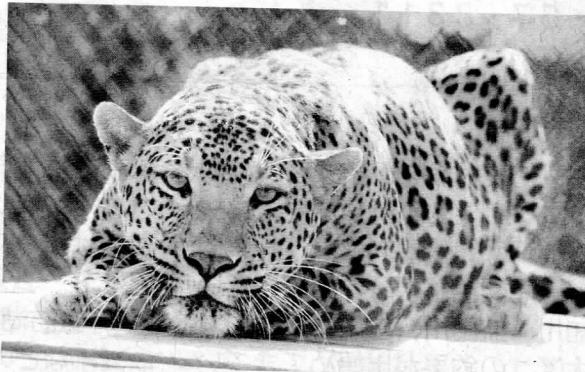
【ニューデリーAFP時事】世界最速の哺乳類チーターを復活させるインドの計画がつまづいている。5月上旬には南アフリカから譲り受けた雌が雄に殺されていたことが判明。3カ月連続で死んでおり、関係者は衝撃を受けている。



モディ首相立ち会いの下、インドで放されるナミビアから来たチーター＝2022年9月、中部マディヤプラデシュ州クノ国立公園 (EPA時事)

チーターはかつて中東や南アジアにも広く分布していた。しかし、インドでは1952年に絶滅が宣言された。現在はアフリカの草原を中心に世界で約7000頭しか残っていないもようだ。インドでは2020年に最高裁の承認を得て、再繁殖計画が開始した。今年4月まで

アフリカから譲り受けるも相次いで死ぬ



に、南アから12頭、ナミビアから8頭を譲り受け、国内の国立公園に放

インドのヒョウ12020年12月、中部マディヤプラデシュ州バンビハール国立公園 (EPA時事)

されてきた。

5月上旬の死因について、中部マディヤプラデシュ州のクノ国立公園は声明を出し「調べた限り雄のチーターによる傷のようだ」と説明。繁殖のため「結婚させよう」とすると、こうしたことは起こり得る」と強調した。「完全な監視は不可能だ」と釈明している。

譲り受けたチーターが死んだのはこれで3頭目だ。1頭は3月、腎臓の病気で命を落とし、2頭目も4月に体調不良の末に死んだ。

チーター復活計画に対しては、インドには野生のヒョウがいるため生息域が競合すると批判されていた。ナミビアの学者からもインドが繁殖地として想定する国立公園ではチーターには狭いと指摘されている。計画では今後10年かけ100頭をインドに連れてくる予定だ。